

ハンディキャップ・サービスの利用者・協力者の方々の声を紹介します。

### わたしと図書館

三原 正道

私が録音図書をよく利用するようになったのは十数年くらい前からだと思います。

それ以前はなんとか墨字(※)を読み書きできていました。高校から盲学校へ行きはじめて、点字や録音テープによる図書があることを知りました。

盲人の世界に入って、はじめのころは拡大読書機や大活字の本があることを知り、こちらを利用していました。

また、点字図書館というのがあるのも、近所の図書館でハンディキャップ・サービスというのがあるのを知りませんでした。

これらを知ったころはまだ、今ほど録音図書を必要としていませんでしたし、専門的な図書も少ないと感じていました。

録音図書を使い出したら、今まで苦労して読んでいたことから開放された気分でした。また、プライベートテープを作ってもらえることを知り、情報のバリアはだいぶ少なくなくなってきたと思います。

これからも図書館とボランティア

の皆さんにお世話になります。

よろしくお願ひいたします。

※墨字：印刷された文字のこと

### 情報テープ制作グループ御中

河東 文之助

※利用者の方からいただいた手紙の一部です。

創刊号、オメデトウゴザイマス  
サマザマナ 御苦勞ガアッタコトト  
拝察 ソンナコトハ チットモ感ジ  
サセナイ サツパリシタ仕上ガリ。  
清新ト云ウ言葉方頭ニスグ浮カビマ  
シタ

オンコチシン アア温故知新カ  
歴史好キノ小生トシテハ 聞キ落ト  
セナイトコロ 多分毎回コノタイト  
ルデ。 タノシミタノシミ

大正3年 タナシ町駅※ 今カラ  
90年ムカシ 何ヲ運ンダノカ 東京  
ニハ 石灰・作物ダラウ 帰リハ?  
1説ニヨルト 汚物ヲ チャッポン  
チャッポン

昭和34年 ヒバリガ丘団地 小生  
ガ 住吉町ニ 移ッテ来タノハソ  
ノ4年アト 春 ハエホコリガ ヒ  
ドカッタ サジン モーモー 今デ  
モ時トシテ ヒドイケド ソシテ団  
地ハ改造着々 正ニ オンコチシン  
ノ 好対照

(以下略、原文横書き)

※現ひばりヶ丘駅

### さらなる向上をめざして

田無点訳の会「ともしび」

畑 千恵子

会が出来て二十年余り、最初の数年間はコツコツと手で点字を打っていました。やがてパソコン点訳の時代が来ました。これは画期的なことです。また時代の変化は点訳の依頼にも感じられます。盲人の進学者が増えて教科書や専門書参考書等が多くなりました。公共機関から福祉関係の文書がくることもあります。その他、市内外の小学校へ出張して点字の授業をすることも恒例になっており、毎年七、八校へ行っています。

会発足後の約十年間は社会福祉協議会の施設で活動していましたが、パソコン点訳になってから、活動の拠点は谷戸図書館に移りました。例会のお部屋、パソコンやプリンター、ほかにも色々な物の置き場等で大変お世話になっています。恵まれた環境に感謝しつつ依頼者のニーズに応えられるよう、皆でもっと勉強していきたいと思っています。

### 細くても長く

西東京市図書館音訳の会

鈴木 和子

子育てが一段落したとき、友人から図書館で声の広報のボランティアの初級研修生を募集している話を聞きました。四年半前のことです。興味

もあり軽い気持ちで応募しました。

ところが、いざ研修が始まるとその内容はかなり厳しく緊張の連続でした。何十年かぶりに辞書を引き、新聞の音読もしました。その後の中級も大変でしたが、同じ目標に向かっ

てがんばっている仲間がいたおかげで何とか終了することができました。そして現在は、テープを数人で作る広報類、一人で作る録音図書に携わっています。どちらも下調べはパソコンよりも図書館を利用することのほうが多くなります。月の半分は図書館通いのときもあります。

テープ作成の活動は、今や私の生活の一部に定着しています。「楽しく聴いていますヨ」とおっしゃってくださる利用者の皆様に、これからも正しく情報が伝わるテープが作れるように努力し、細くても長く地道に続けて行きたいと思っています。

### 編集後記

今回は、皆様が目にする機会の少ないハンディキャップ・サービスについてご紹介しました。

ハンディキャップ・サービスは、「すべての人にすべての本を」という図書館の大きな目標を達成するために欠かせないサービスの一つです。

今後も利用者の要望に耳をかたむけ、的確なサービスを提供できるように努めたいと考えています。